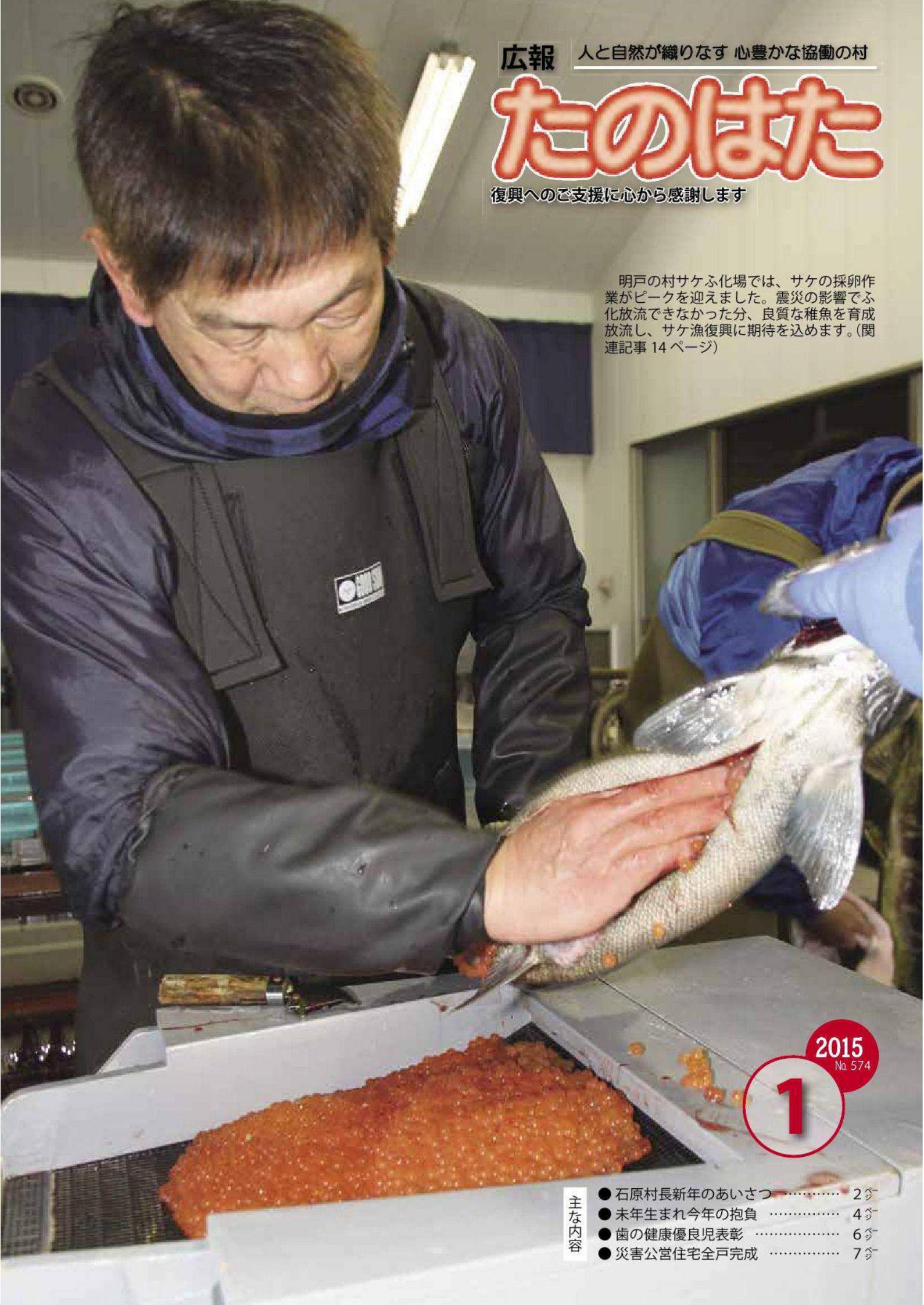


# たのはた

復興へのご支援に心から感謝します

明戸の村サケふ化場では、サケの採卵作業がピークを迎えました。震災の影響でふ化放流できなかった分、良質な稚魚を育成放流し、サケ漁復興に期待を込めます。(関連記事 14 ページ)

2015  
No. 574

1

- 主な内容
- 石原村長新年のあいさつ ..... 2 リ
  - 未年生まれ今年の抱負 ..... 4 リ
  - 歯の健康優良児表彰 ..... 6 リ
  - 災害公営住宅全戸完成 ..... 7 リ

# 迎春

## 未来志向の地域づくりを

平成27年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

村民の皆様には、希望に満ちたすが嬉しい新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年は、東日本大震災から3年がすぎ、被災者の災害公営住宅への入居が始まるなど、徐々にはありますが居住環境を取り戻した方が増えた1年だったと思います。新しい生活空間を得て一安心する方がいる一方で、避難所から仮設住宅、仮設住宅から災害公営住宅へと転居することにより一株の不安が募っている方、中心部から離れた生活に不安が増している方もいるようです。

このように復興が進んだとしても、村民の皆さんは時流の中で日々の課題に直面することから、村は村民目線に立ち、与えられた条件の中で改善する努力を惜しまないこと、村民の皆さんが希求する

希望に向けて、笑顔があふれる活動を重ねていく所存であります。

就任以来、私は地域づくりの基本姿勢として、「信」なくて地域は立たず、「和」なくて地域はまとまらず、「利他」の精神がなくて地域を支えることはできないとの思いで、地域に出向き村民一人一人の「問い合わせ」に丁寧に答え、地域の「思い」を形にすることを基本にしてまいりました。

地域づくりを実践するうえで住民ができる、美しい笑顔に会える村であることを役割があること、仲間が居ること、『つながり』を感じながら生活できることが必要です。当たり前のことが当たり前にできる、美しい笑顔に会える村であることを願っています。

東日本大震災・平成の三陸大津波により被災の方々が受けた悲しみ、苦しみは深く、未だに消えることはありません。

しかし、悲しみを希望に変えられるよう、未来志向の地域づくりの実現に向けて一歩一歩着実に歩んでいきたいと思います。

昨年は3月の尾肝要道路、尾肝要トン

## 将来に希望の持てる村に

### 村民目線で資源を生かす

ネルの開通に始まり、4月の三陸鉄道の全線復旧、7月の北山崎断崖クルーズ観光船の就航、島越駅利用再開など皆さんに復興を実感していただけたさまざまな事業が完成を迎えました。

また早稲田大学や埼玉県深谷市、青森県藤崎町との交流事業、三陸復興道路を活用した新しい道の駅の構想づくり、第

三セクターを中心とした産業の多様化の展開など、復興関連以外にも多くの事業に着手しました。

今年は、震災復興に向けて、移転地など新たな環境におけるコミュニケーションの再生・支援に積極的に取り組んでまいります。被災地の土地利用についても、実施計画を取りまとめ、避難路・避難場所などの整備を進め、沿岸住民の生命と財産を守る環境づくりを早急に実施してまいります。

また、皆さんが将来に希望を持ち活力ある地域づくりを創造するため、第一次産業の振興を中心とした産業全般の連携を図る6次産業を具体的に事業化し、所得向上と雇用機会の創出を図ることに全力を注ぎたいと思います。

未來の田野畠村を支えるために避けては通れない人口減少問題についても、行政と住民がつながり、魅力ある地域づくりにより定住人口の増加が図られるよう、一人一人の縁をつなぎ、価値の創造を図りながら、住んでみたい田野畠村、住み続けたい田野畠村を考えています。

これまでの潮流は、経済が成長し続けることを基本として政策が組み立てられていきました。しかし時代は、不確実がつのない未知の領域に向かっています。過去の成功例が通用しない、経験したことのない農山漁村の暮らしは、住民同士のつながりが深く、食が豊かであり、これに信用ある取り組みが加味されれば、地域は消滅することはありません。時代性をよく見極め、村民目線に立ち、村の持つ資源、ボテンシャルを生かし、「一つ一つ確実に」という決意であります。

本年が村民の皆さんにとって希望に向かって活気に満ち、笑顔があふれる良き年となります。よう心からお祈り申し上げ、年頭のおいさつといたします。

石原 弘村長

明戸地区では平成27年度中の完成を目指して県道兼防潮堤の工事が進んでいます(12月2日撮影)





# 歯の健康優良児表彰

3歳児歯科健診　虫歯ゼロの子どもたち

虫歯の無い児童15人を表彰

村は12月8日、本年度の「歯の健康優良児表彰」を行い、近藤貴樹歯科診療所長がたのはた児童館などを訪問し、表彰状と記念メダルを贈りました。

この表彰は、平成25年度3歳児歯科健診で虫歯の無かった児童を表彰して、児童と保護者が歯磨きを継続して虫歯ゼロを達成した努力をたたえ、乳幼児期の虫歯予防の啓発を図るために行っています。

今回表彰を受けたのは、村内に住所のある平成22年4月2日（23年4月1日生まれ）の22人のうち、虫歯の無い15人。

表彰された若桐保育園の八角梨央ちゃん（4つ）は「朝と夜に歯磨きを頑張りました。これからも虫歯無しのきれいな歯でいられるよう歯磨きをきちんとします」と継続して歯磨きすることを誓っていました。



## 新年と共に新しい生活へ 災害公営住宅全戸完成

12月15日、拓洋台団地に整備を進めていた災害公営住宅20棟が完成し、入居者への鍵の引き渡しを行いました。

平成25年7月の松前沢団地から入居が始まった災害公営住宅は、昨年3月の羅賀東団地、7月の黎明台団地、10月の西和野団地と入居が進み、今回の拓洋台団地への入居で完了となります。災害公営住宅への入居を希望していた被災者全員が平成26年内に入居可能となつたことについて、石原弘村長は「正月に間に合うようにとの思いで工事を進めてきた。ゆっくりと正月を過ごしてもらいたい」と被災者を気遣いました。

災害公営住宅を希望する被災者の入居が完了を迎える一方、自力での住宅再建を予定しながら資材高騰や人手不足などで住宅建築が計画通り進んでいない被災者もいるようです。全被災者の住宅再建の見通しがつくよう村と地域が一丸となり支えていきます。



島越黎明台団地の災害公営住宅。一部の災害公営住宅からは矢越崎と太平洋が望めます

12月15日、拓洋台団地に整備を進め、入居者への鍵の引き渡しを行いました。

平成25年7月の松前沢団地から入居が始まった災害公営住宅は、昨年3月の羅賀東団地、7月の黎明台団地、10月の西和野団地と入居が進み、今回の拓洋台団地への入居で完了となります。災害公営住宅への入居を希望していた被災者全員が平成26年内に入居可能となつたことについて、石原弘村長は「正月に間に合うようにとの思いで工事を進めてきた。ゆっくりと正月を過ごしてもらいたい」と被災者を気遣いました。

災害公営住宅を希望する被災者の入居が完了を迎える一方、自力での住宅再建を予定しながら資材高騰や人手不足などで住宅建築が計画通り進んでいない被災者もいるようです。全被災者の住宅再建の見通しがつくよう村と地域が一丸となり支えていきます。



拓洋台団地の災害公営住宅。正月は新しい住宅で過ごそうと家族総出で引っ越しが行われました



キッチンやバス、洋間などしっかりした造りの災害公営住宅で新しい生活が始まります

# 高台集団移転地4団地を紹介

災害公営住宅の整備が完了した高台集団移転地。自力再建住宅も建設が進んでいます。既存行政区との連携と新しいコミュニティ活動、住民自治の展開が注目されます。

## 羅賀東団地

○造成面積 6,304m<sup>2</sup>  
○宅地造成区画数  

自力再建用地	6
災害公営住宅用地	7
計	13

  
○事業スケジュール  
・宅地造成工事【完了】: 平成25年10月  
・災害公営住宅【完成】: 平成26年3月

## 松前沢団地

○造成面積 8,217m<sup>2</sup>  
○宅地造成区画数  

自力再建用地	6
災害公営住宅用地	10
計	16

  
○事業スケジュール  
・宅地造成工事【完了】: 平成25年3月  
・災害公営住宅【完成】: 平成25年7月

被災を免れた松前沢西側に整備された松前沢団地。島越漁港に近く漁業者にとって利便性に優れた団地です

## 拓洋台団地

○造成面積 59,314m<sup>2</sup>  
○宅地造成区画数  

自力再建用地	12
災害公営住宅用地	20
計	32

  
○事業スケジュール  
・宅地造成工事【完了】: 平成26年5月  
・災害公営住宅【完成】: 平成26年12月

## 黎明台団地

切牛行政区東側の山林を切り開き整備された黎明台団地。団地規模は4団地最大。島越に下る県道には島ノ沢地区につながる約1.1kmのトンネルを整備予定。早急な整備が期待されます

## 羅賀東団地

通称「記念林」に整備された羅賀東団地は、自立再建住宅も次々建築されている印象。将来は近隣に郵便局なども整備予定で利便性の向上が期待されます

## 拓洋台団地

通称「黒沢山」に整備された拓洋台団地。災害公営住宅が建ち並び、自立再建住宅の建築も徐々に始まっています

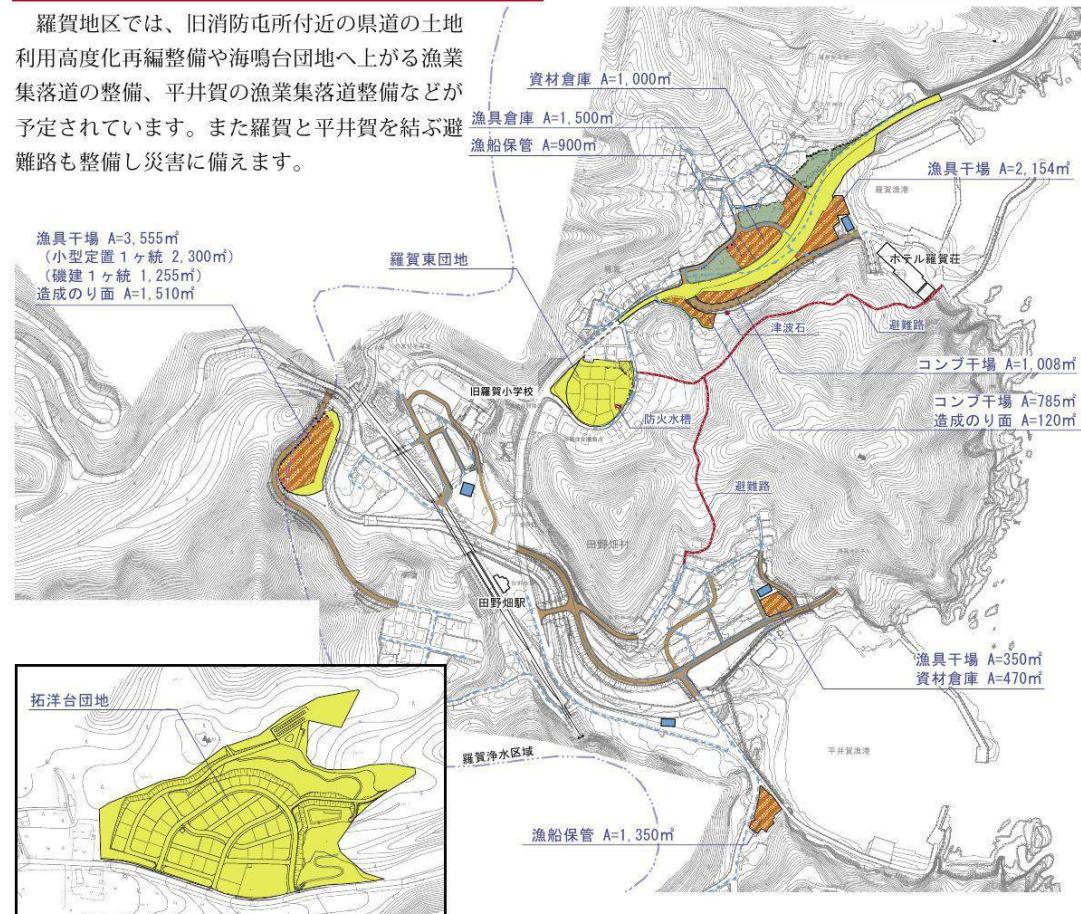
# 漁業集落防災機能強化事業 土地利用高度化再編整備計画図

村は、11月28、29日の両日、羅賀地区と島越地区で被災土地の利活用についての説明会を開催し、村が計画している漁業集落防災機能強化事業について計画図を基に説明しました。

計画では漁業集落道の整備や水産関連施設整備、集落排水施設整備などが計画されており、今後、地権者の承諾を得ながら事業の実施を図っていきます。

## 平井賀漁港地区

羅賀地区では、旧消防屯所付近の県道の土地利用高度化再編整備や海鳴台団地へ上がる漁業集落道の整備、平井賀の漁業集落道整備などが予定されています。また羅賀と平井賀を結ぶ避難路も整備し災害に備えます。



## 島越漁港地区

島越地区では、魚市場に岩手県が整備する人工地盤へ接続する漁業集落道の整備、旧島越駅周辺に漁具倉庫や漁具干場などの水産関連施設を整備する計画です。また島越駅西側には津波避難所を整備予定です。

	漁業集落道整備
	漁業集落排水施設整備
	水産飲雑用水施設整備
	防災安全施設
	土地利用高度化再編整備 うち水産用地整備
	関連一体整備(別途事業)







しゃくなげ女性の会とグループホーム虹の家は「おばばのズンドコ節」を披露

## 歳末演芸会に大きな拍手と笑顔

第44回村歳末たすけあい演芸会(村社会福祉協議会主催)が12月7日開催されました。会場のアズビィホールには約200人が来場し、村内や岩泉町からの個人や団体のボランティア13組の舞踊や演奏を楽しみました。来場した大澤洋子さん(84)=高校仮設=は「踊りや演劇がとても楽しめました。村の人の演目が特に良かったので来年も楽しみにしています」と語ってくれました。最後は餅まきが行われ、来場者は年の最後に福を得ようと手を伸ばしていました。

## 体育協会長杯マレット大会開催

11月30日、村体育協会長杯マレットゴルフ大会が開催され26人の参加がありました。個人の部は佐藤辰男さん(70)=浜岩泉=、ペアの部は羅賀体育会、団体の部は田野畑体育会がそれぞれ優勝。ペアの部に参加した和山花月ちゃん(8)=切牛=は「思っていたより難しかったけど楽しかったです」と笑顔を見せました。震災前の平成22年には168人の参加者があったこの大会。来年は多くの参加者が集う大会になるよう皆さんでプレイしましょう。



お母さんと一緒にペアの部で活躍した和山花月ちゃん。楽しい思い出ができました

## 人権コンテストで小中学生が入賞

全国中学生人権作文コンテスト岩手県大会と岩手県小学生人権書道コンテストの入賞者の表彰が12月11日、田野畑中学校などで行われました。

中学生人権作文コンテストでは2年の小松山怜華さん、小学生人権書道コンテストでは6年の熊谷和真くんがそれぞれ宮古人権擁護委員協議会長賞を受賞しました。熊谷君は「友達のことを思い、気持ちを込めて『友情』と書きました。入賞できてうれしいです」と笑顔を見せました。



緊張した表情で表彰を受ける熊谷和真くん

小松山怜華さんに宮古人権擁護委員協議会長から表彰状が渡されました



緊張した表情で表彰を受ける熊谷和真くん

## 春からの営農に備え座談会開催

村や岩泉普及サブセンターなどで組織する宮古地方農業振興協議会は12月2日、明戸地区公民館で宮古地方園芸推進座談会を開催しました。

座談会では春からの野菜栽培に向けて、新商品や栽培技術を紹介。JA新岩手米穀園芸課の平坂博喜調査役は「今年は米価が安かったので春からの米の作付け面積減少が懸念される。耕作放棄するのではなく、代わりに野菜の栽培面積をみんなで増やすていきましょう」と呼び掛けました。



明戸地区的農業者が集まり春からの営農について普及センターや農協などと懇談

## サケふ化場で今年の卵を全量確保

村漁業協同組合が普代村漁協と共に運営する村サケふ化場では、サケの採卵作業が大詰めを迎えています。

不漁が続く今年のサケ漁ですが、村サケふ化場では雌サケ3千尾、雄サケ1千尾を村内の定置網などの協力を得て、全量を確保しました。

場長の橋場明彦さんは「不漁の中、魚卵確保に目途が立ちホッとしています。2月下旬から順次放流します」と語ってくれました。



村漁協職員などがふ化場で飼育していたサケ親魚を集め採卵作業します

## 6年生が税金の必要性を学ぶ

村は、田野畑小学校6年生を対象に11月27日、租税教室を開催しました。

教室では税金はなぜ納めなければならないか、納められた税金が何に、どのように使われているなどを役場職員が用意した資料とビデオを使って説明しました。説明を受けた熊谷希海くんは「税金がなくなると、さまざまなサービスを受けるのに自分たちで負担しなければならないことが分かり、税金の必要性を学びました。大人になつたらしっかり納税します」と語りました。



真剣な表情で村職員の説明を聞く6年生の皆さん。背筋が伸びて立派でした





## ★お仕事は？

若桐保育園ですすらん組(年少)の副担任をしています。若桐保育園への勤務は1年目です。行事の準備など大変なこともあります、先生たちと協力してうまくできたときや子どもたちの笑顔が見られたときは、この仕事をしていて良かったと思います。

## ★今、頑張っていることは？

早く一人前になれるように仕事を頑張っています。料理を作るのが好きなので、家に居るときはおいしい料理を作れるようにチャレンジしています。

## ★休日は何をしていますか？

家の手伝いや友達と買い物に出かけることが多いですね。音楽を聴きながらのドライブも好きです。

## ★理想の男性のタイプは？

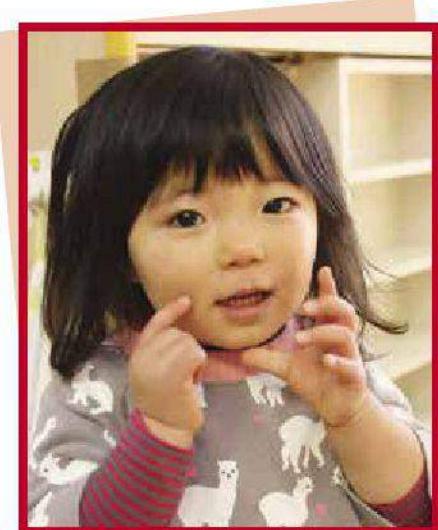
優しくて子どもが好きで思いやりのある人が理想です。俳優さんなら向井理さんですね(笑)

## ★最後に一言お願いします！

子どもたちの笑顔がかわいいので、運動会などのイベントの時は保育園に遊びに来てください。



早野 真優さん(21)=島越=



わが家の  
アイドル



北田 汐帆ちゃん(2歳3ヶ月)  
智巳さん・由希子さん=北山=

お母さんからのひとこと

一見ボ～っとしているけど、なんでもやりたがる汐帆ちゃん。たくさんのことについて興味を持ち、いろいろなことにチャレンジして、のびのび元気でたくましく育ってくれるうれしいです。

国会議員を通じて知り合った方から、深い話を受けた。その方のお話は「私は自分の生活を維持することに精一杯であるが、国のためというより自分がために適度な食事を楽しみ、適度な運動を行い、ストレスを溜めない生活することで健康を保ち、医療の施しを受けない生活を続けることに努めている」というものである。加えて「国や市町村を預かる政治家は、制度をつくり、税金を使うことに一生懸命であるが、一人一人健康を維持することに努めれば、個人も、国も豊かになる。それが最良の政治である」と。まったく、その通りである。

昨年の広報8月号表紙を飾った、板橋の熊谷イスさん97歳の記事を思い出してほしい。熊谷さんのような生活をすることは政治的目的にならなければならぬ。決して予算を使わないことではない。予防への取り組み、健康づくり、人のつながりを大事にする政治を目指したい。



石原弘の  
村長コラム  
4